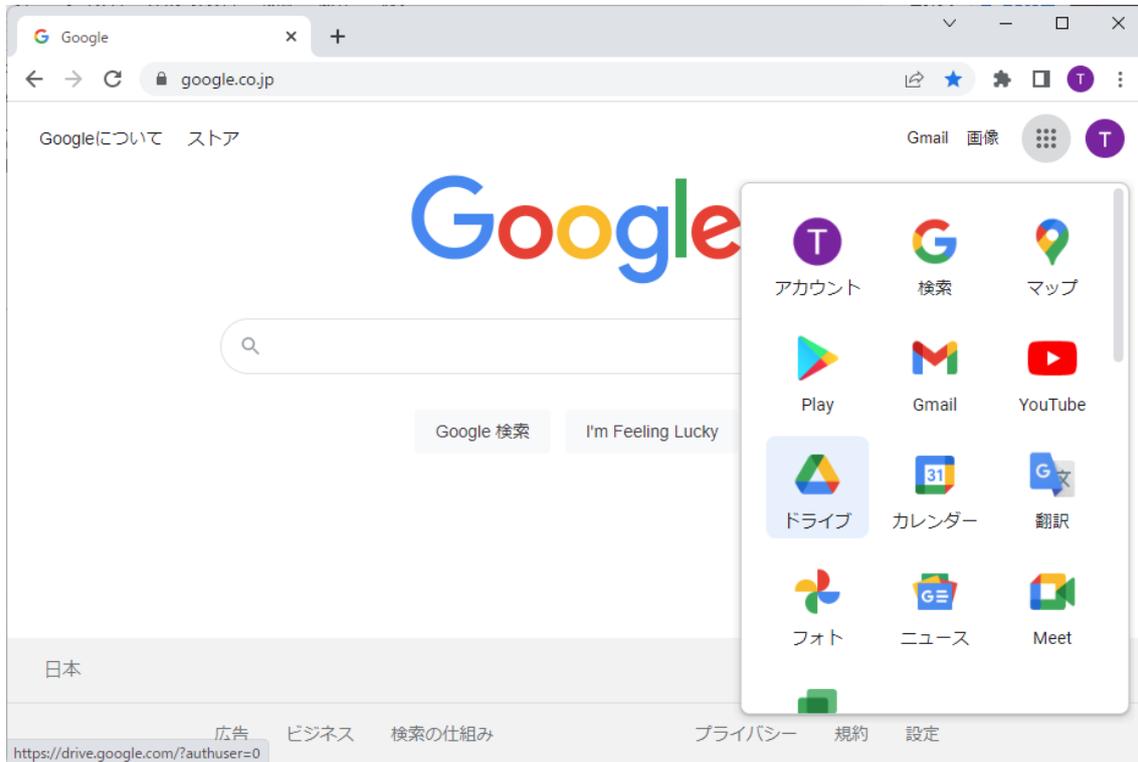
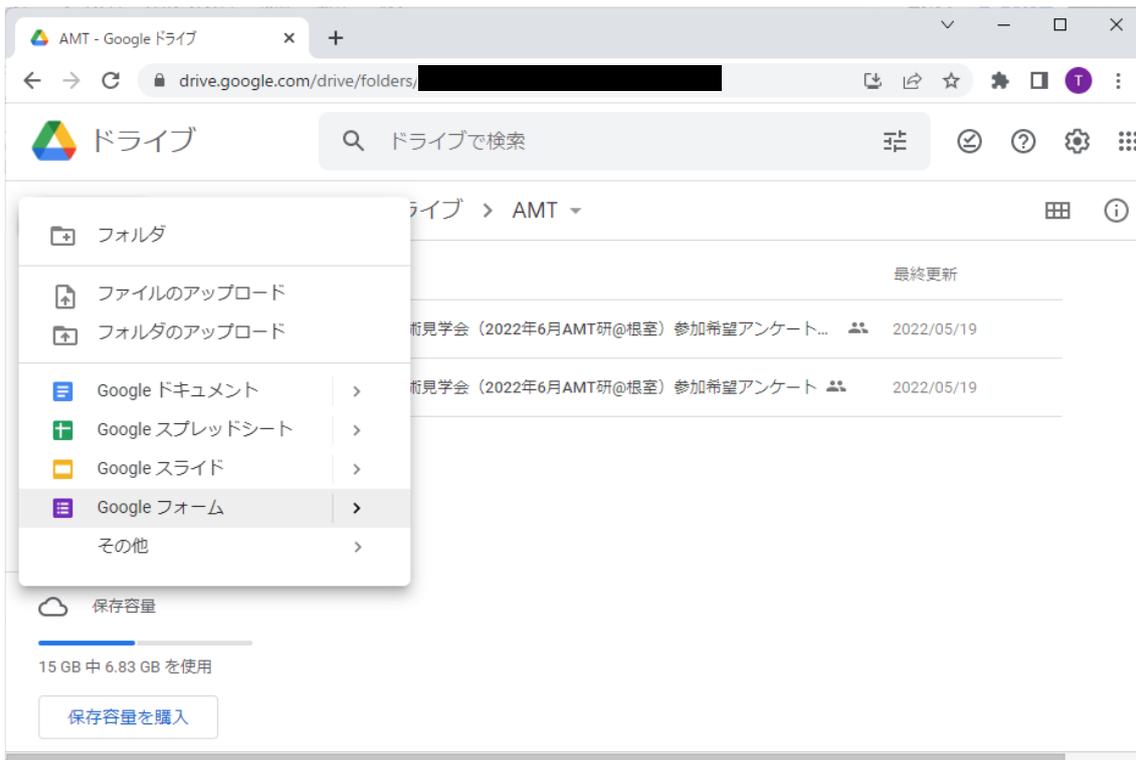


Google フォームで自動メール返信する方法

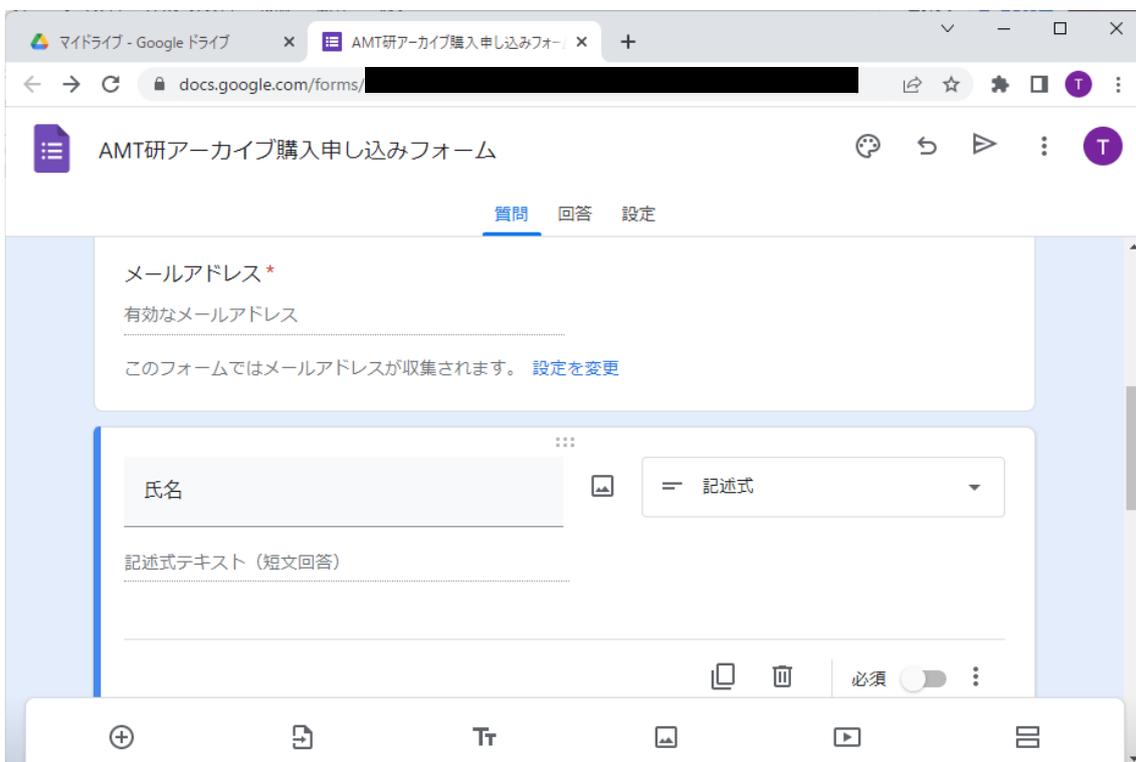
1. Google にログインし、「ドライブ」をクリック



2. 「新規」 → 「Google フォーム」をクリック



3. フォームを作成する。



メールアドレスを必ず収集するのがデフォルトになっているはず。そうでない場合は「設定」→「回答」→「メールアドレス収集」で設定可能。



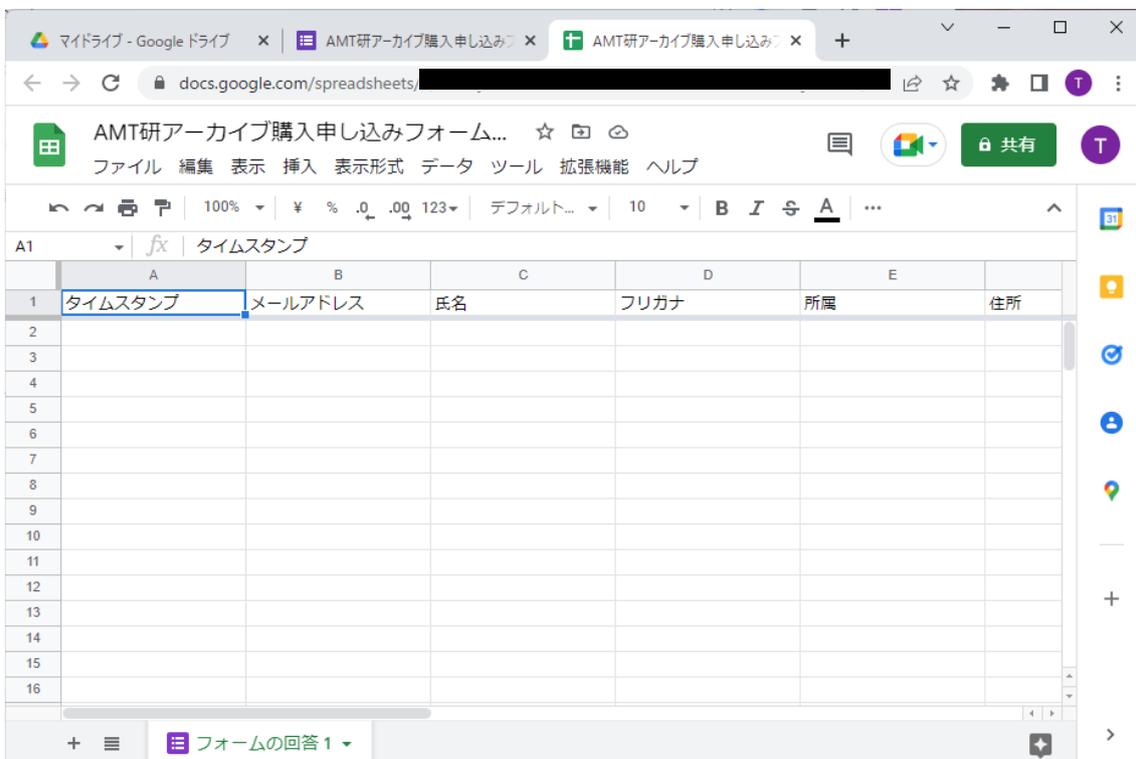
4. フォームをダブルクリックして「回答」タブを選ぶ。そして「スプレッドシートの作成」を選ぶ。



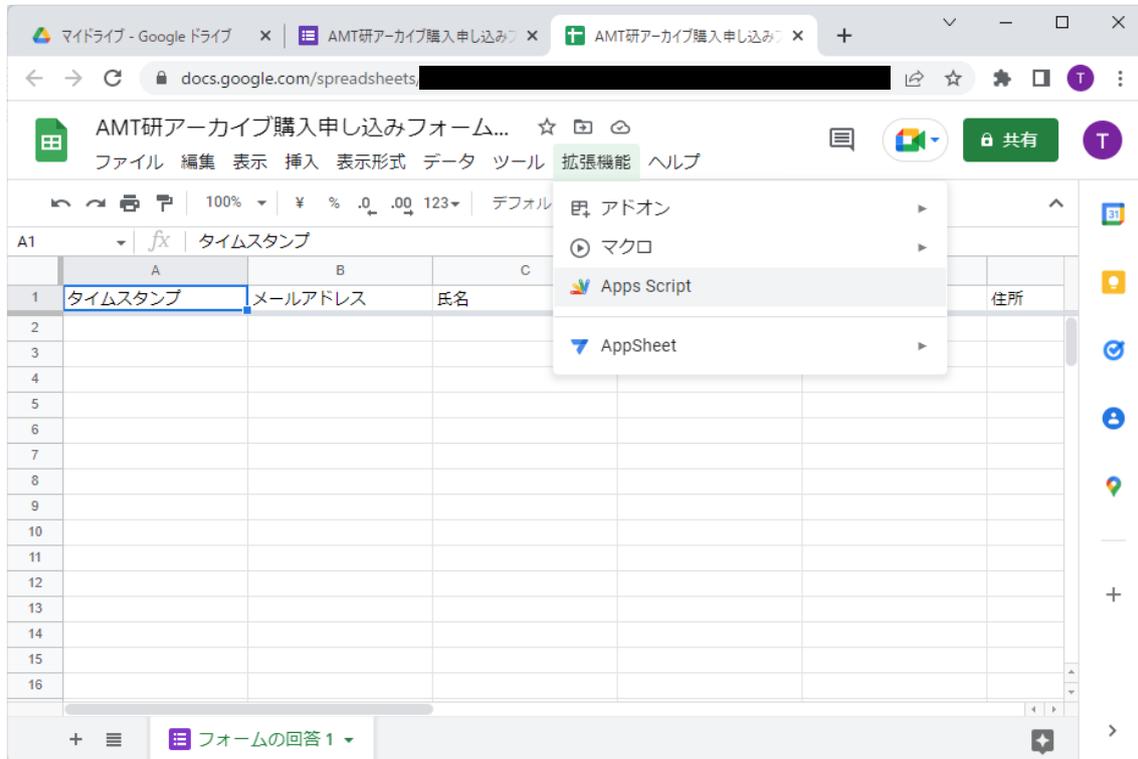
5. 「新しいスプレッドシートを作成」を選ぶ



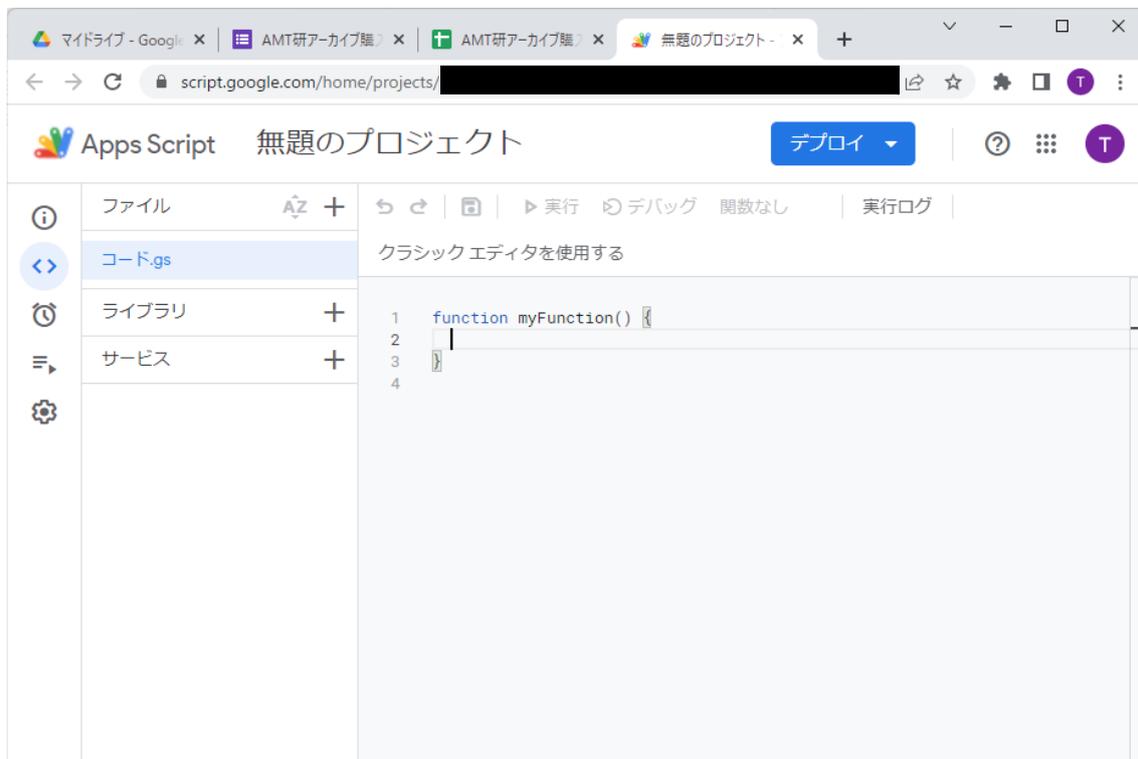
6. フォームの回答が自動入力されるスプレッドシートが出来上がる。ドライブにはフォームと同じ場所にスプレッドシートが生成されている。



7. メール自動返信のスクリプトを設定する場合は、「拡張機能」→「Apps Script」を選択する。



すると、次のスクリプト編集画面が表示される。



8. myFunction のコード入力画面が開くので、次のようにスクリプトを入力する。

```
//-----
// このスクリプトを回答スプレッドシートのスクリプトに記述
// アクションは「スプレッドシートから」、「フォーム送信時」とする
//-----
function myFunction() {

//-----
// 設定エリアここから
//-----

// 件名、本文、フッター
var subject = "AMT 研フォーム入力(自動返信)";
var body
  = "ご回答いただきまして、どうもありがとうございました。¥n¥n"
  + "以下の内容にてご回答いただきましたのでご連絡いたします。¥n"
  + "-----¥n";

var footer
  = "-----¥n¥n"
  + "何かご不明な点がございましたら、¥n"
  + "本メールへの返信にてご連絡をお願い致します。¥n¥n"
+ "*****¥n"
+ "AMT 研幹事 █████、平野¥n"
+ "E-mail: █████.go.jp, █████@████.ac.jp¥n"
+ "*****¥n"

// 入力カラム名の指定
var NAME_COL = '氏名';
var AFFILIATION_COL = '所属';
var MAIL_COL = 'メールアドレス';
var TIMESTAMP_COL = 'タイムスタンプ';

// メール送信先
var admin = "████@████.ac.jp"; // 管理者(必須)
var cc = ""; // Cc:
var bcc = admin + "," + "████.go.jp"; // Bcc:
var reply = admin; // Reply-To:
var to = ""; // To: (入力者のアドレスが自動で入ります)

//-----
// 設定エリアここまで
//-----
```

```

try{
  // スプレッドシートの操作
  var sh = SpreadsheetApp.getActiveSheet();
  var rows = sh.getLastRow();
  var cols = sh.getLastColumn();
  var rg = sh.getDataRange();
  Logger.log("rows="+rows+" cols="+cols);

  // メール件名・本文作成と送信先メールアドレス取得
  for (var j = 1; j <= cols; j++ ) {
    var col_name = rg.getCell(1, j).getValue(); // カラム名
    var col_value = rg.getCell(rows, j).getValue(); // 入力値

    if ( col_name === NAME_COL ) { //メール本文の最初に名前を入れる
      body = col_value+" 様\n\n"+body;
    }

    if ( col_name === MAIL_COL ) { //メールアドレス
      to = col_value;
    }

    if ( col_name === TIMESTAMP_COL ) { //タイムスタンプ⇒申込日時
      col_name = '回答日時';
    }

    body += "["+col_name+"]\n";
    body += col_value + "\n\n";
  }
  body += footer;

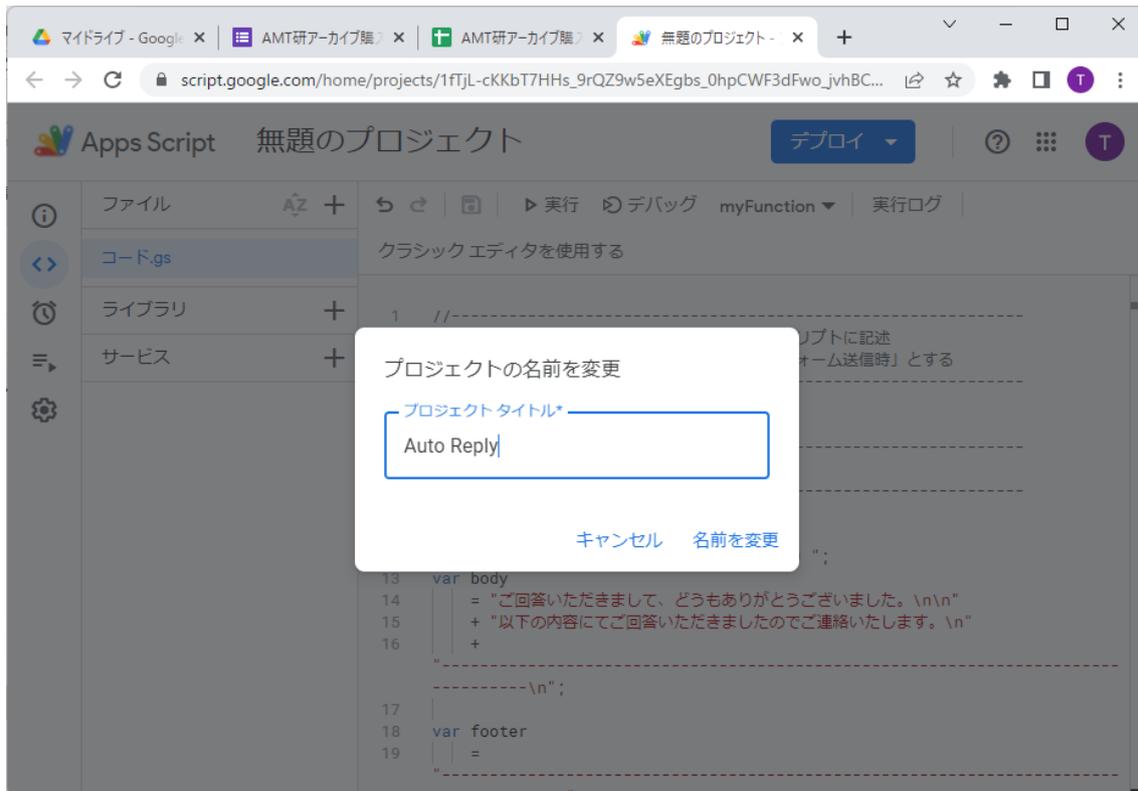
  // 送信先オプション
  var options = {};
  if ( cc ) options.cc = cc;
  if ( bcc ) options.bcc = bcc;
  if ( reply ) options.replyTo = reply;

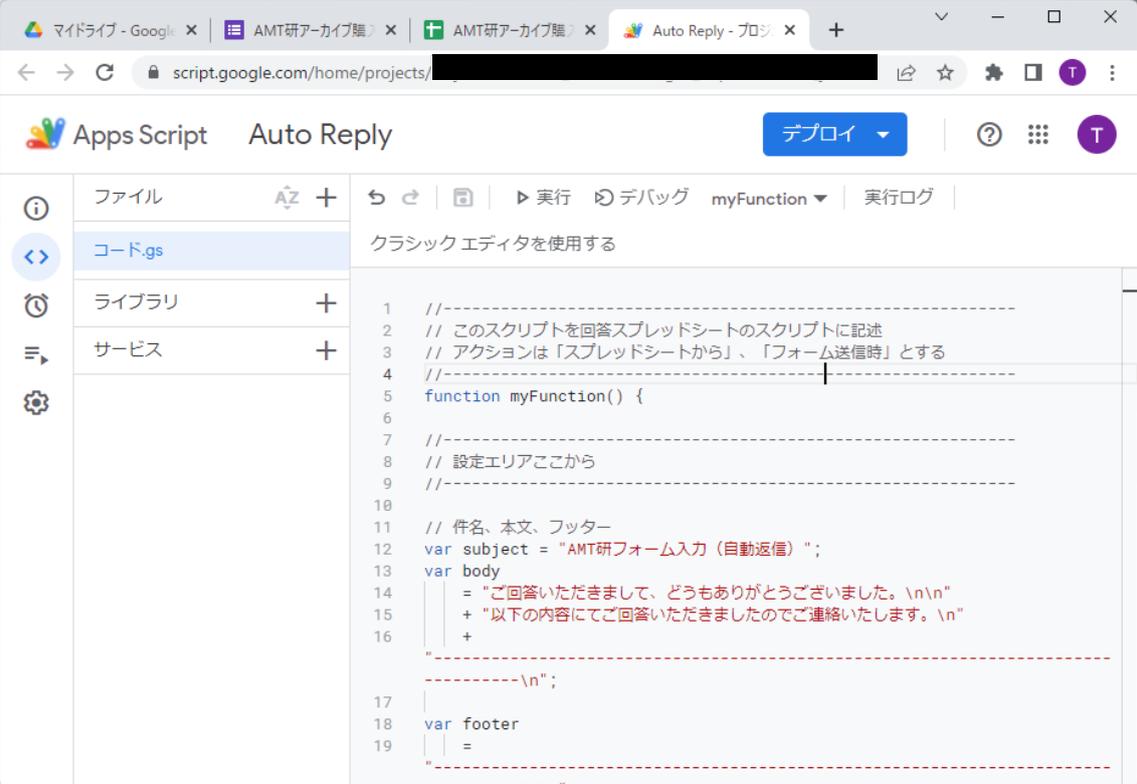
  // メール送信
  if ( to ) {
    MailApp.sendEmail(to, subject, body, options);
  }else{
    MailApp.sendEmail(admin, "【失敗】Google フォームにメールアドレスが指定されてい
    ません", body);
  }
}catch(e){
  MailApp.sendEmail(admin, "【失敗】Google フォームからメール送信中にエラーが発生
  ", e.message);
}

```

}

CTRL-S かフロッピーディスクアイコンをクリックするとプロジェクト名を求められるので、適当に入力する。





The screenshot shows the Google Apps Script editor interface. The browser tabs at the top include 'マイドライブ - Google', 'AMT研アーカイブ', and 'Auto Reply - プロジェクト'. The address bar shows the URL 'script.google.com/home/projects/'. The main header displays 'Apps Script Auto Reply' and a 'デプロイ' (Deploy) button. The left sidebar contains a navigation menu with 'ファイル' (Files), 'コード.gs' (Code.gs), 'ライブラリ' (Libraries), and 'サービス' (Services). The main editor area shows the following JavaScript code:

```
1 //-----
2 // このスクリプトを回答スプレッドシートのスクリプトに記述
3 // アクションは「スプレッドシートから」、「フォーム送信時」とする
4 //-----
5 function myFunction() {
6
7 //-----
8 // 設定エリアここから
9 //-----
10
11 // 件名、本文、フッター
12 var subject = "AMT研フォーム入力（自動返信）";
13 var body
14   = "ご回答いただきまして、どうもありがとうございました。\\n\\n"
15   + "以下の内容にてご回答いただきましたのでご連絡いたします。\\n"
16   +
17   "-----\\n";
18 var footer
19   =
20   "-----"
```

9. 左の欄から「トリガー」を選ぶ。

The screenshot shows the Google Apps Script editor interface. The left sidebar has the 'Triggers' (トリガー) tab selected. The main editor area displays a JavaScript function named 'myFunction' with several comments in Japanese. The function is currently empty, with only the opening curly brace and a closing line visible.

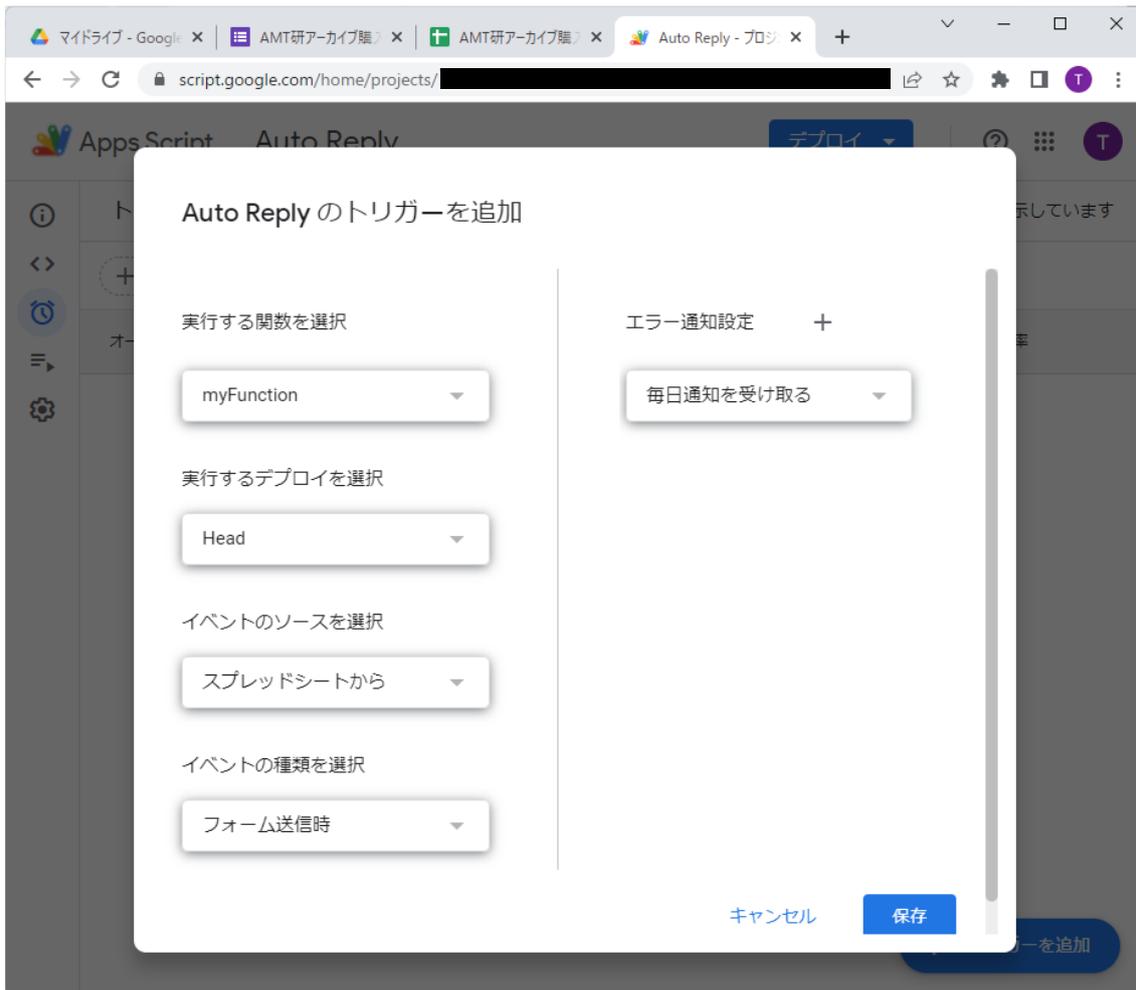
```

1  //-----
2  // このスクリプトを回答スプレッドシートのスクリプトに記述
3  // アクションは「スプレッドシートから」、「フォーム送信時」とする
4  //-----
5  function myFunction() {
6
7  //-----
8  // 設定エリアここから
9  //-----
10
11 // 件名、本文、フッター
12 var subject = "AMT研フォーム入力（自動返信）";
13 var body
14   = "ご回答いただきまして、どうもありがとうございました。\\n\\n"
15   + "以下の内容にてご回答いただきましたのでご連絡いたします。\\n"
16   +
17   -----\\n";
18 var footer
19   =

```

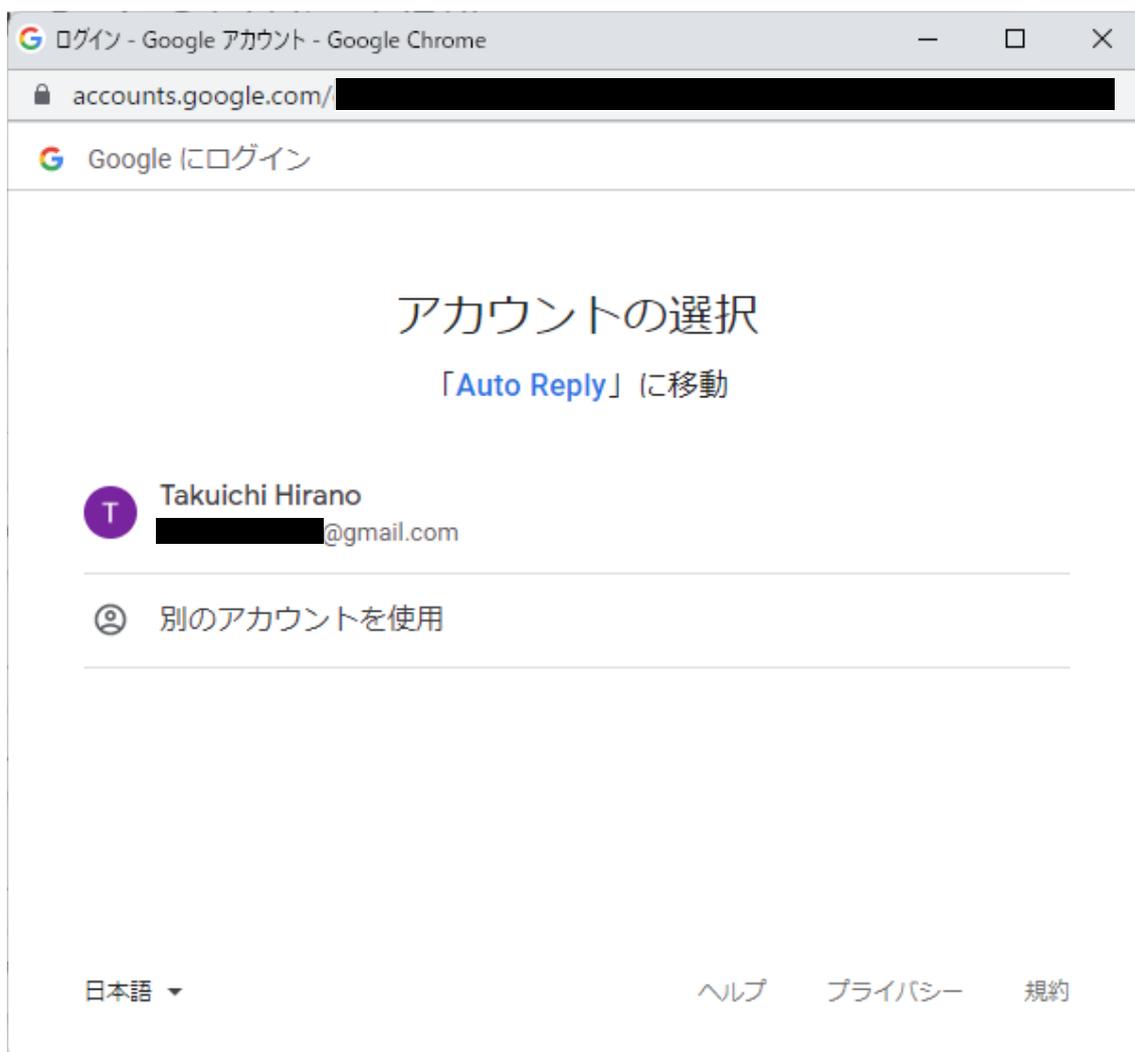
In the second screenshot, the 'Triggers' tab is selected, showing a table with columns for 'Owner', 'Last Run', 'Import', 'Event', 'Count', and 'Error Rate'. The table is currently empty, and a large magnifying glass icon is centered in the main area. A blue button labeled '+ トリガーを追加' (Add Trigger) is visible in the bottom right corner.

右下の「トリガーを追加」を選ぶ。



上のように「実行する関数を選択: myFunction」、「実行するデプロイを選択: Head」、「イベントのソースを選択: スプレッドシートから」、「イベントの種類を選択: フォーム送信時」となっていることを確認して「保存」をクリック。

あとは、Google に自動メール送信を許可する設定をする。次のように表示されるはず。



自分の Google アカウントを選択。



「詳細」をクリック。



「Auto Reply (安全ではないページ) に移動」をクリック。



ログイン - Google アカウント - Google Chrome

accounts.google.com/signin/

Auto Reply が Google アカウントへのアクセスをリクエストしています

 @gmail.com

Auto Reply に以下を許可します:

- Google スプレッドシートのすべてのスプレッドシートの参照、編集、作成、削除 
- Google ドライブのフォームの表示と管理 
- 📧 ユーザー本人に代わってのメールの送信 

Auto Reply を信頼できることを確認

お客様の機密情報をこのサイトやアプリと共有することがあります。アクセス権の確認、削除は、[Google アカウント](#)でいつでも行えます。

[Google でデータ共有を安全に行う方法](#)についての説明をご覧ください。

[Auto Reply のプライバシー ポリシーと利用規約](#)をご覧ください。

日本語 ▾ [ヘルプ](#) [プライバシー](#) [規約](#)

さっきのスクリプトの実行を許可するために「許可」をクリックすると、つぎのようにトリガーが設定される。

Apps Script Auto Reply デプロイ

トリガー 1個のトリガーを表示しています

+ フィルタを追加

オーナー	前回の実行	導入	イベント	回数	エラー率
自分	-	Head	スプレッドシートから - フォーム送信時	myFunction	-

1ページあたりの行数: 25

+ トリガーを追加

Gmailにアクティビティ確認メールが届くので、「アクティビティを確認」をクリックする。

セキュリティ通知

Gmail

メールを検索

作成

受信トレイ 32,750

スター付き

スヌーズ中

重要

送信済み

下書き

Meet

会議を新規作成

会議に参加

ハンガアウト

Takuichi

ハンガアウトの連絡先がありません
ユーザーを探す

セキュリティ通知

Google <no-reply@accounts.google.com> 16:14 (4 分前)

To 自分

Google

お使いの Google アカウントへのアクセス
が Auto Reply に許可されました

@gmail.com

アクセスを許可した覚えがない場合は、このアクティビティをご確認の
うえ、アカウントを保護してください。

アクティビティを確認

セキュリティ関連のアクティビティも確認できます
<https://myaccount.google.com/notifications>

以上